



平成 28 年 5 月 13 日

会 社 名 大東紡織株式会社
代表者名 取締役社長 山内 一裕
(コード：3202 東証・名証各第 1 部)
問 合 せ 先 取締役執行役員 三枝 章吾
経営管理本部長
(TEL 03-3665-7843)

中期経営計画（2016 年 4 月～2018 年 3 月）について

当社は、中期経営計画「Bridge to the Future～未来への架け橋～」を策定し、本日公表いたしましたので、お知らせいたします。

（1）旧中期経営計画について

2016 年 3 月に終了した中期経営計画「Beyond 120th～120 周年を超えて未来へ～」では、計画期間中の円安進行や消費増税の影響が想定を上回ったため、最終年度に繊維・アパレル事業の構造改革を断行することとなりました。この結果、最終年度の損益計画の修正を余儀なくされました。しかしながら、静岡県に所在する商業施設サントムーン柿田川の好調な業績に支えられるとともに、繊維・アパレル事業の構造改革により業績

の下振れ要因がなくなったこともあり、第 1 四半期以降の毎四半期累計期間で黒字を計上し、期中に上方修正した業績予想をほぼクリアし最終黒字を確保することができました。

（2）新中期経営計画について・中期経営計画「Bridge to the Future～未来への架け橋～」

今後につきましては、海外経済の不透明感が高まっており、さらに為替動向、資源価格の影響や 2017 年 4 月からの消費増税の動向など国内経済の不透明感もあることから、新たに策定した中期経営計画は 2 年間の短期集中型の計画といたしました。その間、「財務体質の強化」、「プロパー事業の強固な基盤作り」、「利益の底上げ」に取り組み、次のジャンプアップに向けたいわゆる「未来への架け橋」とも言うべき位置付けにいたします。

（3）主要な戦略テーマは次のとおりです。

- ①商業施設事業 ・ライバルを凌駕するポジションを持続させ競争優位を固める
- ②ヘルスケア事業 ・健康長寿社会への貢献をテーマに協業を推進する
- ③繊維・アパレル事業 ・構造改革後の事業再構築により成長軌道に乗る準備を進める
- ④財務体質の強化 ・長期安定資金の調達と各種財務目標達成へのコミットメント
- ⑤コーポレートガバナンスコードに沿った経営推進
・株主を始めとするステークホルダーの立場を踏まえて透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う
- ⑥人材戦略 ・HR (Human Resources) ミッションへの取組みを進め、社会に貢献できる人材を育成する

（4）計画最終年度の損益計画

売上高 5,210 百万円、営業利益 480 百万円、経常利益 360 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 290 百万円とします。また、財務目標として、①経常利益率 5%以上、②ROE 5%以上等を掲げて取り組みます。

その他詳細は別紙をご覧ください。

また、さらに詳細な説明資料を当社ホームページに掲載しておりますのでご参照ください。

以 上

(別紙) 中期経営計画「Bridge to the Future～未来への架け橋～」の詳細



2016年5月

大東紡織株式会社



旧中期経営計画の総括

旧中期経営計画期間中の円安進行や消費増税の影響は想定を上回っていたため、特に繊維・アパレル事業における事業環境が厳しいものとなりました。このため、最終年度には、紳士服販売事業からの撤退を柱とする繊維・アパレル事業の構造改革の実施を余儀なくされました。また、ヘルスケア事業においては、原料価格の上昇圧力もあり、苦戦を強いられ伸び悩む結果となりました。

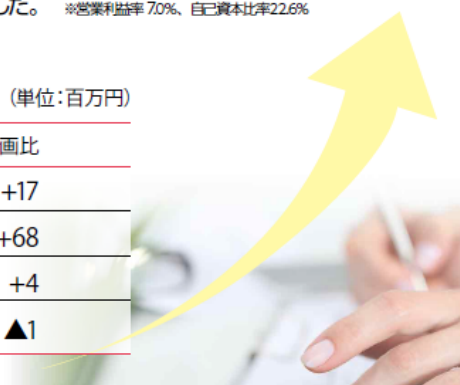
しかしながら、好調な商業施設サントムーン柿田川に支えられるとともに、繊維・アパレル事業の構造改革により業績の下振れ要因がなくなったこともあり、ほぼ修正後の業績予想通りの水準で最終黒字を確保することが出来ました。

また、この結果、目標とする経営指標である「営業利益率6%以上」「自己資本比率20%以上」をいずれもクリアすることができました。 ※営業利益率7.0%、自己資本比率22.6%

【最終年度の計画と実績】

(単位:百万円)

| | 計画 (27.11修正後) | 実績 | 計画比 |
|---------------------|---------------|-------|-----|
| 売上高 | 5,390 | 5,407 | +17 |
| 営業利益 | 310 | 378 | +68 |
| 経常利益 | 70 | 74 | +4 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 125 | 124 | ▲1 |



本計画の基本的な考え方

当社は、昨年度に、繊維・アパレル事業の構造改革を断行し、長年の課題であった同事業の赤字体質からの脱却に目途を付けました。次のステップとして、もう一つの課題であった借入金返済負担の軽減に向けた「財務体質の強化」に着手します。

今回の中期経営計画は、こうした一連の改革を始め様々なチャレンジを推進することにより、「プロパー事業の強固な基盤作り」と「利益の底上げ」を最優先課題とすると共に、株価向上も十分に意識して経営を進めてまいります。

不透明な経営環境下、本計画は次のジャンプアップに向けたいわゆる「未来への架け橋」とも言うべき位置付けとし、計画期間2年の短期集中型の中期経営計画と致しました。

財務体質の強化

プロパー事業の強固な基盤作り

利益の底上げ

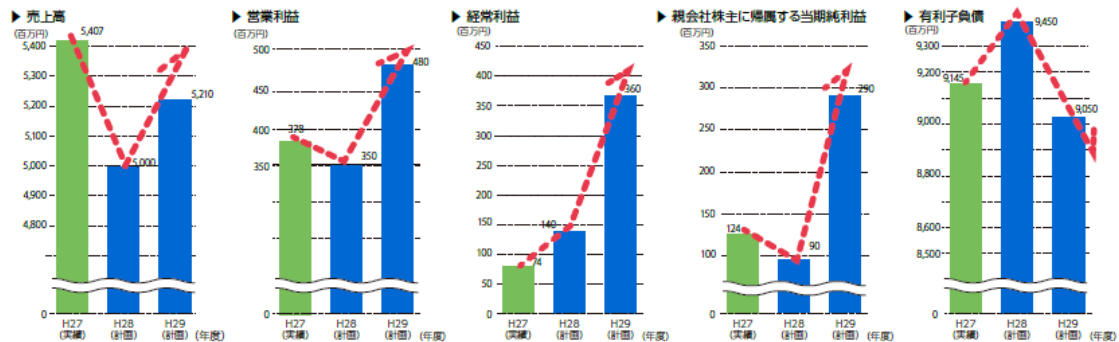
未来への架け橋
Bridge to the Future



主要戦略



主要な計数計画

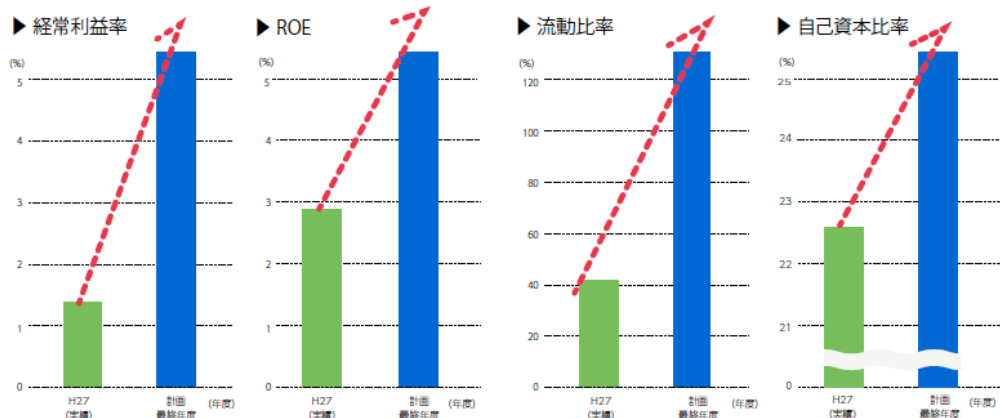


【計数計画】

(単位: 百万円)

| | 平成27年度 (実績) | 平成28年度 (計画) | 平成29年度 (計画) |
|---------------------|-------------|-------------|-------------|
| 売上高 | 5,407 | 5,000 | 5,210 |
| 営業利益 | 378 | 350 | 480 |
| 経常利益 | 74 | 140 | 360 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 124 | 90 | 290 |
| 有利子負債 | 9,135 | 9,450 | 9,050 |

財務目標



【財務目標】

※利益率及び財務内容の安定性を高める観点から、右記の4指標を目標とします。

| | 平成27年度実績 | 計画最終年度 |
|--------|----------|--------|
| 経常利益率 | 1.4% | 5%以上 |
| ROE | 2.9% | 5%以上 |
| 流動比率 | 40.7% | 120%以上 |
| 自己資本比率 | 22.6% | 25%以上 |

*当資料に掲載されている内容は種々の前提に基づいて作成したものであり、記載された将来の業績等を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる結果になる可能性があることにご留意ください。